飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

平成 30 年 12 月 31 日現在

今月の重点活動

■果樹　「飛騨のくだもの」の新たな産地戦略　～飛騨地域産地協議会の設立総会～

【会議の様子】

将来にわたって「飛騨のくだもの」のブランドを維持するための新たな産地戦略を展開することを目的に、12 月 19 日(水)に飛騨地域産地協議会の設立総会を開催した。

本協議会は、生産者、ＪＡ、市、県で構成され、各機関が連携して「10 年後の目指すべき産地の姿」に向けた、様々な取組みを実施する際に、中心となる組織である。

設立総会の実施に当たり、産地改革の根幹となる「飛騨地域果樹産地構造改革計画」について生産者の代表者らと産地の実情に応じた取組みを協議し、設立総会当日に承認された。

新たな産地戦略の着実な実行には、産地が一体となって取り組みを展開する必要があることから、今後、農業普及課では、産地協議会構成員と連携を図りながら、ブランドの維持・発展に向けた活動を支援していく。

新たなブランドづくり

■スナップエンドウ　飛騨甘秋スナップエンドウ反省会を開催

農業普及課では、農業者の所得確保につなげようと、秋作スナップエンドウの作付けを推進している。

稲刈り後や、トマトの収穫打ち切り後に収穫時期を設定することも可能で、生産者を幅広く募集しながら生産拡大を進めている。

スナップエンドウは、甘みとパリッとした食感が特徴で、近年人気が高まっているため、市場価格は高く、安定した収量も見込めることから高い収入が期待できる。

農業普及課では、新たなブランド創出支援事業（H29～31）を活用しながら普及を進めており、12月25日（火）にＪＡひだ本店にて今年の栽培を振り返る飛騨甘秋スナップエンドウ反省会を開催した。

当日は、秋作スナップエンドウ栽培に取り組む農家ら９人が参加し、販売状況報告から拡大している産地の生産状況について情報提供が行われ、販売方法、仲間づくりなど、活発に意見を交わした。

平成 30 年度生産販売実績

地区	H30(/kg)	H29(/kg)	前年比(%)	H30(千円)	H29(千円)	前年比(%)
高山	581	18	3228	898	34	2636
丹生川	3,119	1,450	215	5,300	3,165	167
高山南	13	7	186	13	13	99
吉城	604	511	118	1,039	1,012	103
合計	4,317	1,986	217	7,250	4,225	172

多様な担い手づくり

■担い手　高山市家族経営協定合同調印式開催

【家族経営協定合同調印式】

12月25日（火）に高山市農業委員会の主催で家族経営協定合同調印式が開催され、10戸の農家が家族経営協定を締結した。10戸の農家は、後継者の就農及び夫婦での新規参入による経営開始に合わせて新たに締結したものである。10戸とも、経営ビジョン、役割分担や労働報酬、経営継承などの就業条件について家族内でじっくり話し合い、今まで以上に１人１人の能力を活かしながら、農業経営及び農家生活に張り合いと誇りを持つきっかけとなった。

また、農業者年金の制度説明の機会を設け、家族経営協定締結の理解を促した。農業普及課では、各農家の家族経営協定書の作成支援を行い、今後も協定内容の実現化を指導する。

■水稲　地域水田農業の担い手について意見交換

高山市上野地区では地区水田農業の将来を見据え、農業改良組合、農業委員が中心となり話し合いを進めており、12 月 14 日（金）に上野平公民館で地区内の担い手候補の生産者と意見交換会を行った。

担い手候補の生産者からは、現状と今後の農地集積の展望について話を伺い、当面の地区内からの委託希望農地の扱いについて協議した。

農業普及課は他地域での水田農業の担い手の動向を踏まえた助言を行うとともに、市と連携して、今後計画されている改良組合員の意向調査内容を作成、提示し、担い手側からの意見を確認した。

今後は、意向調査結果に基づいた上野地区での集落営農システムの構築に向け、関係機関と濃密な連携により支援していく。

■飛騨トマト研修所　３期生就農間近、経営に役立つ情報提供を冬期研修で習得

【潅水資材講座の様子】

ＪＡひだ飛騨トマト研修所では、夏秋トマトの栽培がない冬期に３名の研修生と参加を希望する新規就農予定者数名を対象として、冬期研修（農業技術講座）を開催している。

研修内容は、トマトを栽培するために必要な施肥管理、病害虫防除技術等にとどまらず、経営のノウハウ習得を目的とした先輩農業者への視察訪問や、春作業のスケジュール作成などを含んでおり、就農にむけての不安を取り除くことに重点を置いている。

農業普及課では、カリキュラムの作成、講師（関係機関）との連絡調整を行うとともに、現地活動で得られた情報を中心に「使える技術」を提供している。

■ＧＡＰ　**高校生がＧＡＰ取得チャレンジシステムの現地確認受験・認定**

【高校生が畜産ＧＡＰ現地確認受験】

12 月 17 日（月）に飛騨高山高等学校において、生物生産科３年生がＧＡＰ取得チャレンジシステムの現地確認を受けた。

飛騨高山高等学校では課題研究としてＪＧＡＰ（家畜・畜産物）認証取得に向けて５名が取り組んでおり、ＪＧＡＰの準備段階として 10 月にＧＡＰ取得チャレンジシステムの審査・認定機関である（公社）中央畜産会に対して、Ｗｅｂ上で生徒らが自ら認証申請を行った。

今回、畜産・学校関係者らが見守る中、学生らが審査員の質問に対して準備した文書・帳票に基づき説明を行った。また、農場管理の確認では、資材置場、作業マニュアルや危険箇所の見える化の実践について審査員から高く評価された。その結果、12 月 26 日（水）に取組確認済農場として認定された。

今後は、革新支援専門員がＪＧＡＰ指導員として畜産ＧＡＰの普及を図る。

売れるブランドづくり

■**高山市地場市場青果出荷組合　異常気象対応研修**

高山市地場市場青果出荷組合では、事業方針の一つとして「天候に左右されない栽培技術の確立」を掲げている。今年は７月豪雨に始まって、ほとんど１ヵ月間雨が降らない猛暑・干ばつ、その後の連続した大型台風の来襲と、組合員は大きな損害を受けた。

そこで、対策のために気象庁から講師を招いて 60 名の参加者を対象に「異常気象対応研修」を開催した。農業普及課からは今年の気象概要について説明した。この後の岐阜地方気象台の講演では、最近の異常気象の原因は地球温暖化にあること、また集中豪雨の原因は気温上昇により大気中の水蒸気が増えたことで、「小さな筧が大きな筧に変わると水が溜まるのに時間がかかるが、一回に放出される水量は多くなる」ことの例えで、わかりやすく理解された。地球は氷河期に向かっているのではないかという鋭い質問もあったが、短期的には温暖化は間違いなく、今後は台風も頻度は変わらないけれど大型化すると説明があり、対策に課題が残った。

■**飛騨産米改良対策会議　第２回会議を開催**

【会議の様子】

飛騨農業振興会主催の飛騨産米改良対策会議が 12 月 17 日（月）にＪＡひだ飛騨地域農業管理センターで開催された。飛騨産米改良対策会議は飛騨農業振興会の他、ＪＡひだ、ＪＡ全農岐阜飛騨駐在所、ＮＯＳＡＩひだと県の関係機関により構成され、飛騨地域の稲作について振興方策を検討している。

今年度２回目となる今回の会議では、今年の稲作を振り返るとともに各機関が実施した実証ほ・調査ほや食味コンクール等の結果を確認した。また、近年取り組んでいる美味しいお米づくりについて、稲作情報誌「飛騨のこめ」で食味向上特別号を発行することとなった。

農業普及課では加留課長以下、水稲の担当者全員が会議に出席し、情報提供の他、振興方策の策定では中心的な役割を果たすなど会議の運営を支援している。来年２月に発行予定の食味向上特別号の作成についても全面的に支援を行う。

■りんご　**第 21 回りんご『ふじ』品評会を開催**

12 月 6 日(木)にＪＡひだ果実出荷組合協議会主催による『第 21 回りんご「ふじ」品評会』が開催された。また、本品評会は飛騨農林事務所も審査員として開催を支援している。

品評会には､管内の４果樹生産組合から合計 40 点が出品され、いずれも甲乙つけがたい素晴らしいりんごであった。

今年度は、台風や干ばつなど、りんご栽培においては厳しい気象条件下であった。しかし、品評会では、例年同様に高品質な果実が出展されており、災害に対応して高品質な果実を安定生産するという、生産者の高い栽培管理技術が伺われた。

今後、農業普及課では、生産者の更なる栽培技術向上や産地振興を支援していく。

【審査員による最終審査】

■夏秋トマト　**トマト個人面談始まる**

清見荘川地区では 12 月 20 日（木）より個人面談を実施しており、面談では次年度の品種構成や改善点等を検討し、次年度の栽培に向けての指導を行った。

個人面談は飛騨地域の各トマト部会で同様に実施されており、トマト農家の栽培技術向上に役立っている。

農業普及課では、ＪＡ等関係機関と連携した個人面談を行うことで、トマト農家への綿密な指導を行っている。

【個人面談で綿密に指導】

■夏秋トマト　**高山トマト部会反省会による新品種の栽培技術統一**

高山蔬菜出荷組合トマト部会では、12 月 11 日（火）に全体の反省会を行った。

今年の長雨や猛暑などの天候による減収に対する解決策に加え、本年度から本格導入されている「麗月」の品種特性と栽培技術の統一を図るため研修を行った。

裂果しないというメリットだけにとらわれず、小玉傾向などデメリットも理解してもらい、生育ステージごとに注意点を説明した。

今後は反省会の課題をもとに、全生産者に対する個別相談会を実施し、次年度に向けた栽培計画をたてていく。

【研修会で技術統一】

■春菊　**春菊芯枯れ症に関する調査結果を報告**

12 月 14 日（金）に吉城蔬菜出荷組合春菊部会の反省会が開催され、農業普及課から春菊の栽培に関する調査を報告した。

毎年高温時期に春菊の成長点で発生する芯枯れ症が栽培上の課題となっていることから、本年７～９月にかけて芯枯れ症の発生と土壌硬度の関係性について３名の生産者の協力を得て調査を実施した。土壌が硬いほど芯枯れ症の発生が多いという結果となり、土壌の物理性改善が芯枯れ症を減らすために有効であると考えられた。

農業普及課では、高品質な春菊の安定生産に向けて調査・指導を継続して実施していく。

【反省会で調査結果を報告】

■ほうれんそう　**各支部反省会における気象災害対策の呼びかけ**

12 月、飛騨ほうれんそう部会の各支部において今年度の反省会が開催された。農業普及課では、今年相次いで発生した気象災害（豪雨・猛暑・台風）への対策について呼びかけた。特に甚大なハウス被害を受けた台風対策については、現場における優良事例（ハウス肩の補強、筋交いなど）を紹介し、より具体的な手法について説明した。

気象災害が相次いだ中、生産者の復旧に向けた努力もあって、飛騨ほうれんそうの出荷量は前年比 95%まで回復することができた。「災害に強い産地づくり」を目指して、農業普及課では支援を継続していく。

【普及課からの反省会資料】

■蔬菜　**労務管理に関する個別相談会を開催**

景気の回復や高齢化などの影響により、調整作業等を担うパート確保が難しくなってきており、農業現場の労務環境の改善を図るために12月21日（金）に社会保険労務士を講師として招き、個別相談会を開催した。

当日は生産者から作業中の事故に対する備えや雇用確保などについて相談があり、労災保険の加入や保障の対象、効果的な人材の募集方法、採用後に定着するための工夫等について講師より助言があった。

農業普及課では、人手不足を解消するための体制づくりを検討していく。

【個別相談で
社労士より助言】